

III-6. HIV 患者さんの検討について

6. HIV 患者さんの検討について

- HIV 感染者は足関節の QOL が低く、消炎鎮痛薬の効果に満足していない患者さんが多い結果が得られました。
- 新型コロナウイルス感染症に対しては、新型コロナウイルスのワクチン接種やワクチン接種前の凝固因子製剤の予備的投与の割合が高く、今回のアンケート調査の結果では、非感染者に比較して新型コロナウイルス感染症に罹患した割合が少なかった結果となりました。
- ワクチン接種後の副反応は HIV 感染者で多く認められました。
- COVID-19 感染の流行による活動性の低下は、HIV 非感染者に比較して、HIV 感染者で有意に低下していました。
- HIV 感染者は PHQ-9 得点が高く、抑うつ傾向にあることが分かりました。

【要旨】

HIV 感染者は足関節の QOL が低く、消炎鎮痛薬の効果に満足していない患者さんが多い結果が得られました。新型コロナウイルス感染症に対しては、新型コロナウイルスのワクチン接種やワクチン接種前の凝固因子製剤の予備的投与の割合が高く、非感染者に比較して新型コロナウイルス感染症に罹患した割合が有意に少なかった結果となりました。ワクチン接種後の副反応は HIV 感染者で多く認められました。COVID-19 感染の流行による活動性の低下は、HIV 非感染者に比較して、HIV 感染者で有意に低下していました。また、HIV 感染者は PHQ-9 得点が高く、うつ傾向にあることが分かりました。

【結果】

(1) HIV 感染の有無による消炎鎮痛薬の効果の満足度

HIV 感染者が消炎鎮痛薬に不満・やや不満と回答した割合は 13.2%であり、HIV 非感染者 7.0%と比較して、HIV 感染者では消炎鎮痛薬の効果に満足していない割合が有意に多い結果でした。年齢を調整しても、HIV 感染の有無で消炎鎮痛薬の効果に対する不満を感じる割合に有意差を認めました。

表 III-6-(1) HIV 感染の有無による消炎鎮痛薬の効果の満足度

	消炎鎮痛剤の効果の満足度					合計 n (%)
	満足 n (%)	ほぼ満足 n (%)	普通 n (%)	やや不満 n (%)	不満 n (%)	
HIV 感染有り	11 (8.5%)	43 (33.3%)	58 (45.0%)	10 (7.8%)	7 (5.4%)	129 (100.0%)
HIV 感染無し	20 (14.1%)	56 (39.4%)	56 (39.4%)	9 (6.3%)	1 (0.7%)	142 (100.0%)
わからない	0 (0.0%)	1 (33.3%)	1 (33.3%)	0 (0.0%)	1 (33.3%)	3 (100.0%)

χ^2 二乗検定 p=0.033

(2) HIV 感染の有無と PHQ-9 の得点の検討

全年齢で比較しても HIV 感染者のほうが非感染者と比較して PHQ-9 得点が高い結果でしたが、さらに薬害 HIV 感染の危険がなかった現在の若年層—具体的には感染者の今回調査の最若年 39 歳よりも若い血友病患者さんをのぞき、年齢を揃えて 2 群を比較すると、その差はさらに明確になりました。HIV 感染者の方が PHQ-9 得点は有意に高く、HIV 感染者の 5 人に 1 人が中程度以上のうつ状態になっていることが明らかになりました。また、HIV 感染者は足の QOL が低い (Mann-Whitney) 結果が得られました。

図 III-6-(2)-1) HIV 感染の有無と PHQ-9 高群低群割合の検討

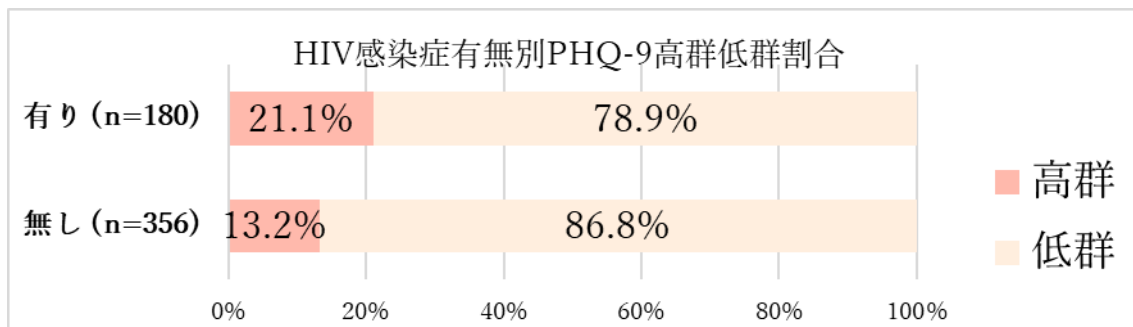


図 III-6-(2)-2) HIV 感染の有無と PHQ-9 得点分布

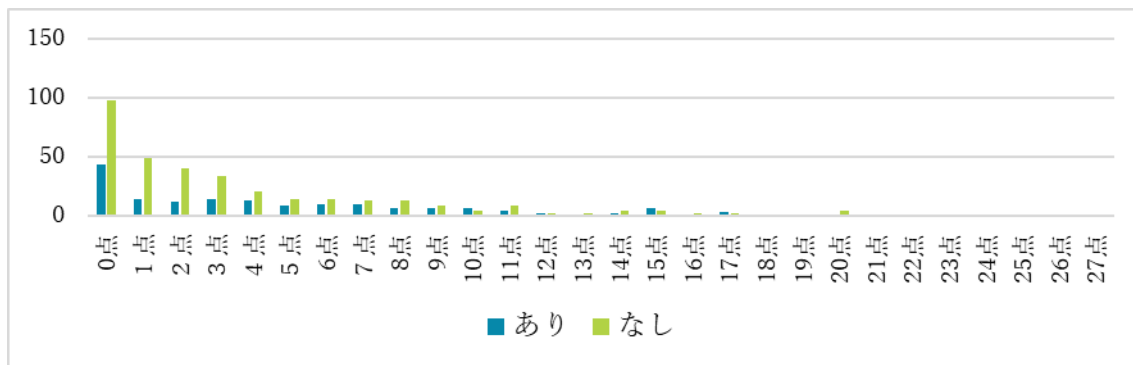
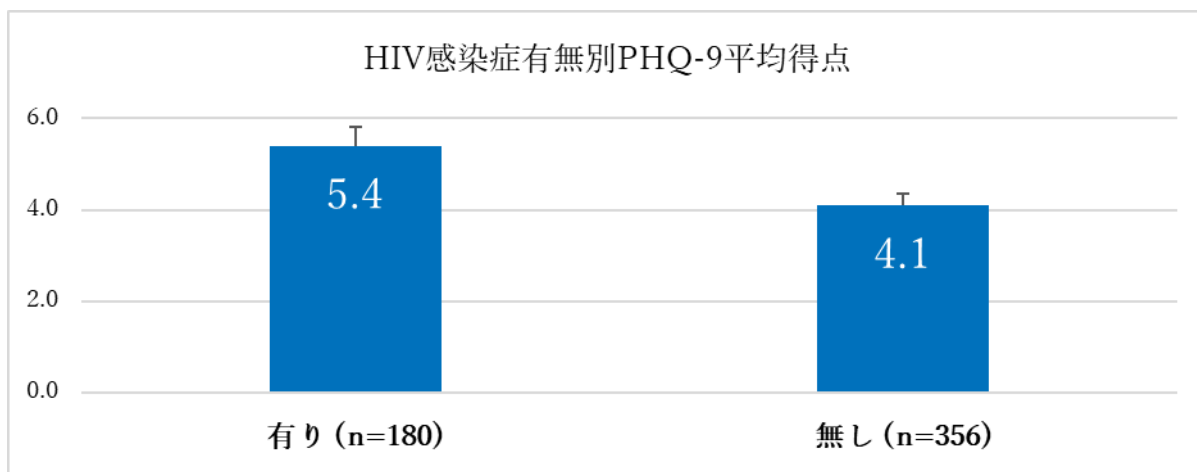


図 III-6-(2)-3) HIV 感染症の有無別の PHQ-9 平均得点



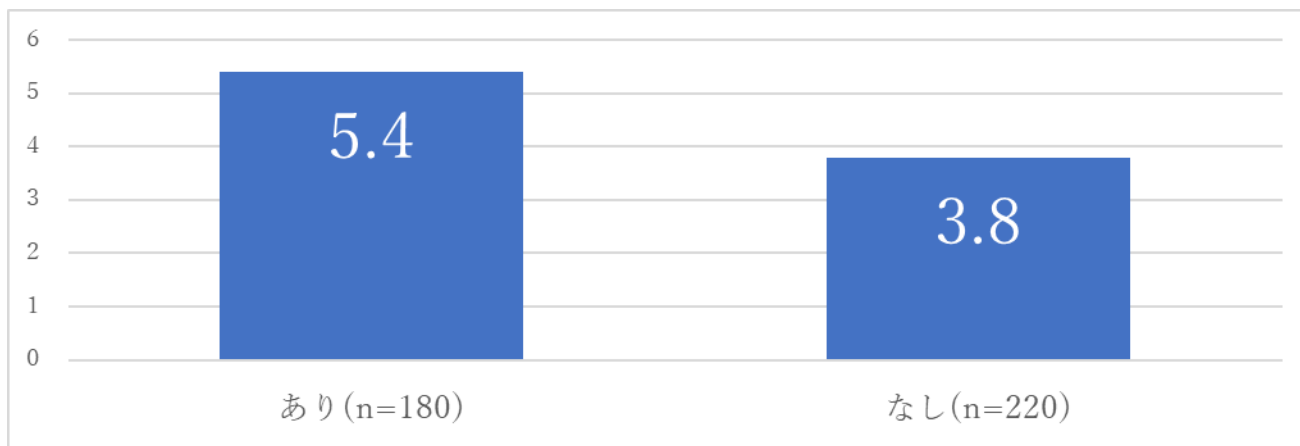
年齢調整済 HIV 感染の有無と PHQ-9 得点比較 (39 歳以上、HIV 感染の有無と PHQ-9 得点がある 400 名を対象としました)

なし n=220 PHQscore=3.8 sd=4.748

あり n=180 PHQscore=5.4 sd=5.51

t=-3.1186. P<.01

図 III-6-(2)-4) 年齢調整済 HIV 感染有無と PHQ-9 得点比較



(3) HIV 感染者の SAFE-Q について

HIV 感染者の SAFE-Q の中央値を検討した結果 (HIV に関しては 40 歳以上で比較)、HIV 感染者は足の QOL が低い (Mann-Whitney) 結果が得られました。

表 III-6-(3) HIV 感染者の SAFE-Q 中央値

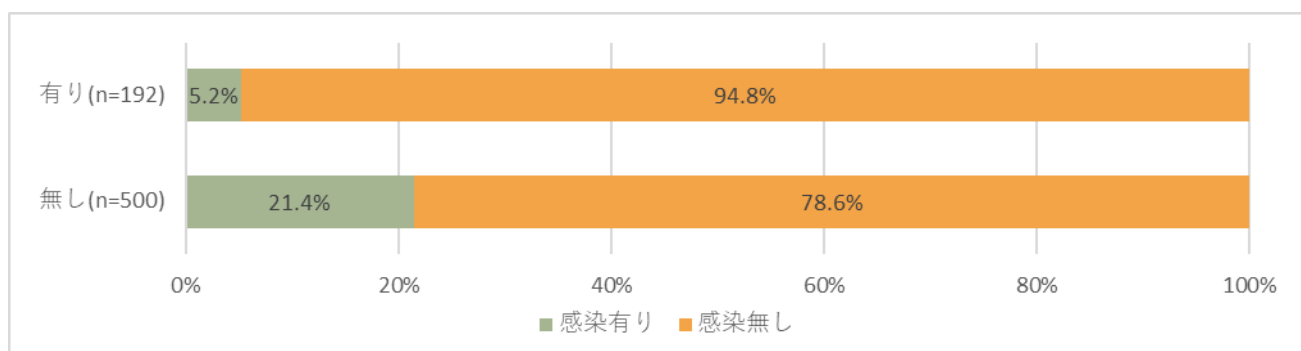
SAFE-Q	HIV*			
	n	陽性	陰性	p
痛み・痛み関連	376	68.3	80.6	<0.001
身体機能・日常生活の状態	391	63.6	79.5	<0.001
社会生活機能	392	83.3	100	<0.001
靴関連	400	83.3	100	0.007
全体的健康感	398	75.0	90.0	<0.001
スポーツ (選択項目)	55	60.0	56.0	0.993

(4) HIV 感染の有無と新型コロナウイルス感染症関連

1) HIV 感染の有無と新型コロナウイルス感染罹患率 (n=714)

HIV 感染者で新型コロナウイルス感染無しの割合が高く、HIV 非感染者で新型コロナウイルス感染有りの割合が高い (p<0.001) 結果が得られました。

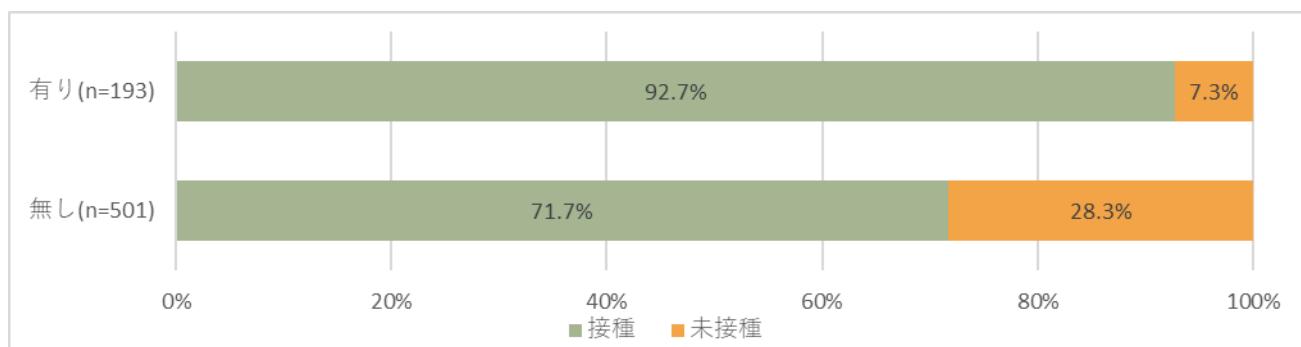
図 III-6-(4)-1) HIV 感染の有無と新型コロナウイルス感染罹患率



2) HIV 感染の有無とワクチン接種の有無 (n=714)

HIV 感染者で新型コロナウイルスのワクチン接種率が高く、非感染者でワクチン未接種の割合が高い (p<0.001) 結果でした。

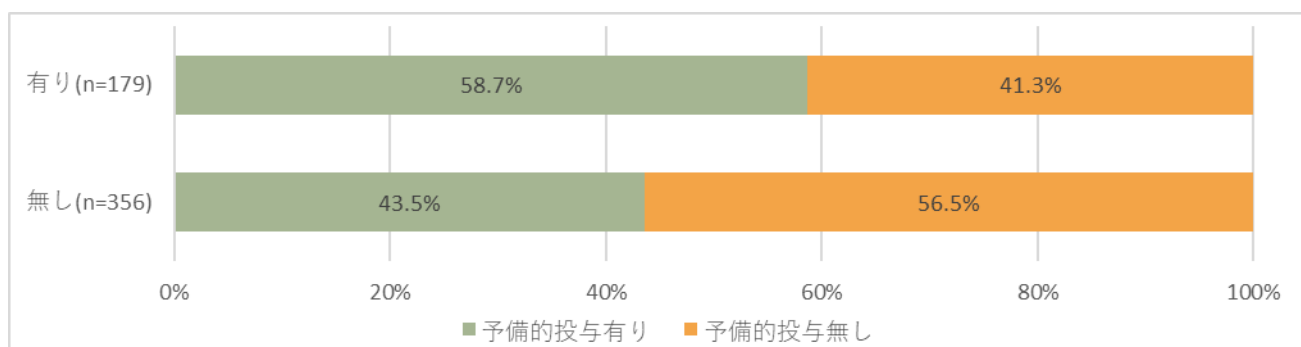
図 III-6-(4)-2) HIV 感染の有無とワクチン接種の有無



3) HIV 感染の有無とワクチン接種前の予備的投与 (n=552)

HIV 感染者でワクチン接種前の予備的投与の割合が高く、HIV 非感染者でワクチン接種前の予備的投与をしていない割合が高い結果 (p=0.001) になりました。

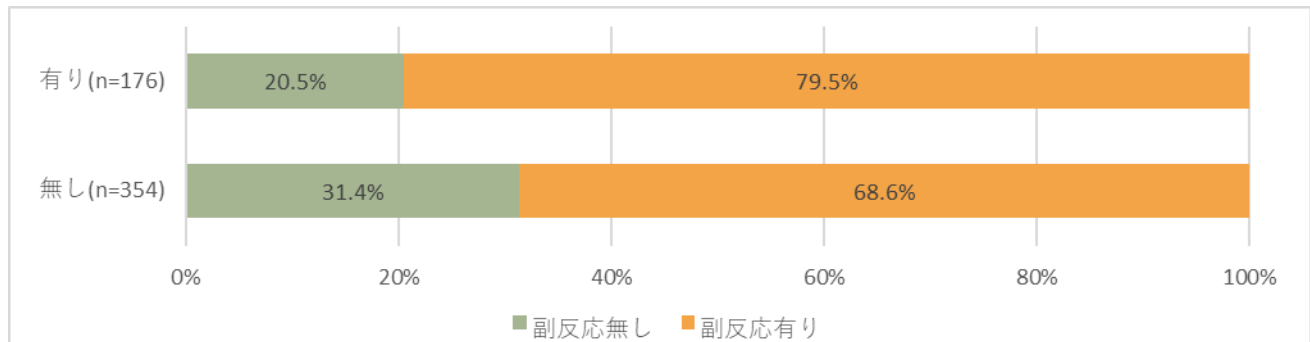
図 III-6-(4)-3) HIV 感染の有無とワクチン接種前の予備的投与



4) HIV 感染の有無とワクチン接種後の副反応 (n=552)

HIV 感染者で新型コロナウイルスのワクチン接種後の副反応が多く認められ、HIV 非感染者で副反応無しの割合が高い結果でした。(p=0.008)

図 III-6-(4)-4) HIV 感染の有無とワクチン接種後の副反応



5) 感染流行による活動性の低下(n=714)

新型コロナウイルス感染症が流行して「活動性が上がった/やや活動性が上がった/かわらない」を「変わらない/上がった」に、「やや低下した/低下した」を「低下した」の2群化して分析した結果、HIV 感染者で「低下した」割合が高く、HIV 非感染者で「変わらない/上がった」の割合が高い結果となりました。(p=0.020)

6) 製剤配送依頼(n=714)

新型コロナウイルス感染症が流行して、製剤の配送について「必要性を感じなかった」「希望したが言えなかった」「希望したが断られた」「実行した(自分で手配した物も含む)」の4群で分析した結果、HIV 感染者で「製剤配送を実行した」の割合が高く「製剤配送の必要性を感じなかった」の割合が低い(p<0.001)結果でした。

【まとめ】

HIV 感染者は足関節のQOLが低く、消炎鎮痛薬の効果に満足していない割合が多かったため、足関節の血友病性関節症の治療(整形学的な治療介入やリハビリの導入、サポーターや装具の使用のみならず、消炎鎮痛薬の使用など)に積極的に取り組む必要があると考えられました。新型コロナウイルス感染症に対しては、HIV 感染者はワクチンを積極的に接種し、ワクチン接種前の予備的補充も積極的に行い、慎重に対応してきた様子が伺え、今回のアンケート調査の結果では、HIV 感染者では非感染者に比較して新型コロナウイルス感染症に罹患しなかった割合が高い結果が得られていました。新型コロナウイルス感染症の流行に伴う活動性の低下は HIV 感染者で有意でした。ワクチン接種後の副反応は HIV 感染者

で多く認められたため、情報共有と患者への説明が必要です。PHQ-9 は精神神経系疾患、SAFE-Q の各項目得点とも有意な相関があり、血友病患者さんにとっても抑うつ状態を測る有効な手段となり得ます。HIV 感染者は PHQ-9 得点が高く、抑うつ傾向にあることが分かりました。世代別に HIV 感染率を検討した結果、50 代が PHQ-9 得点を引き上げる一因になっていると考えられたため注意が必要です。今回血友病患者さんの 50 代が一般就労者より抑うつ傾向が高い結果であり、その背景を考えると、その差は重症度やインヒビター保有者の比率の差ではなく、HIV 感染者の比率が高いことや、出血は薬の進歩で減少したとしても、関節痛などの痛みは 50 代が最も多くなり、抑うつの原因になっていると考えられました。